

平成 31 年 2 月 25 日
観 測 部

推計気象分布（気温）がこれまで以上に正確な表現となります

推計気象分布（気温）において、局所的降水等に伴う気温変化をこれまで以上に正確に表現できるようになります。平成 31 年 2 月 27 日 10 時より改良された情報を提供いたします。

気象庁では、アメダスや気象衛星ひまわりの観測データ等を基に、1km メッシュで地上の気温及び天気の面的な分布を推計した「推計気象分布」を提供しています。

平成 31 年 2 月 27 日 10 時より、推計気象分布（気温）のアルゴリズムの改良を行います。これにより、局所的降水等の気象の変化に伴う気温変化をこれまで以上に正確に表現します（別紙）。また、この改良に伴い、推計気象分布（天気）の降水域の雨雪判別の精度も一層向上します。

今後も農業や交通、流通といった産業、あるいは身近な生活においても重要な役割を果たす気温や、雨と雪の区別といった天気に関するより正確な「今の」情報を提供していきます。

○推計気象分布

<https://www.data.jma.go.jp/obd/bunpu/index.html>

改良の詳細については、下記の技術情報をご覧ください。

○配信資料に関する技術情報第 506 号

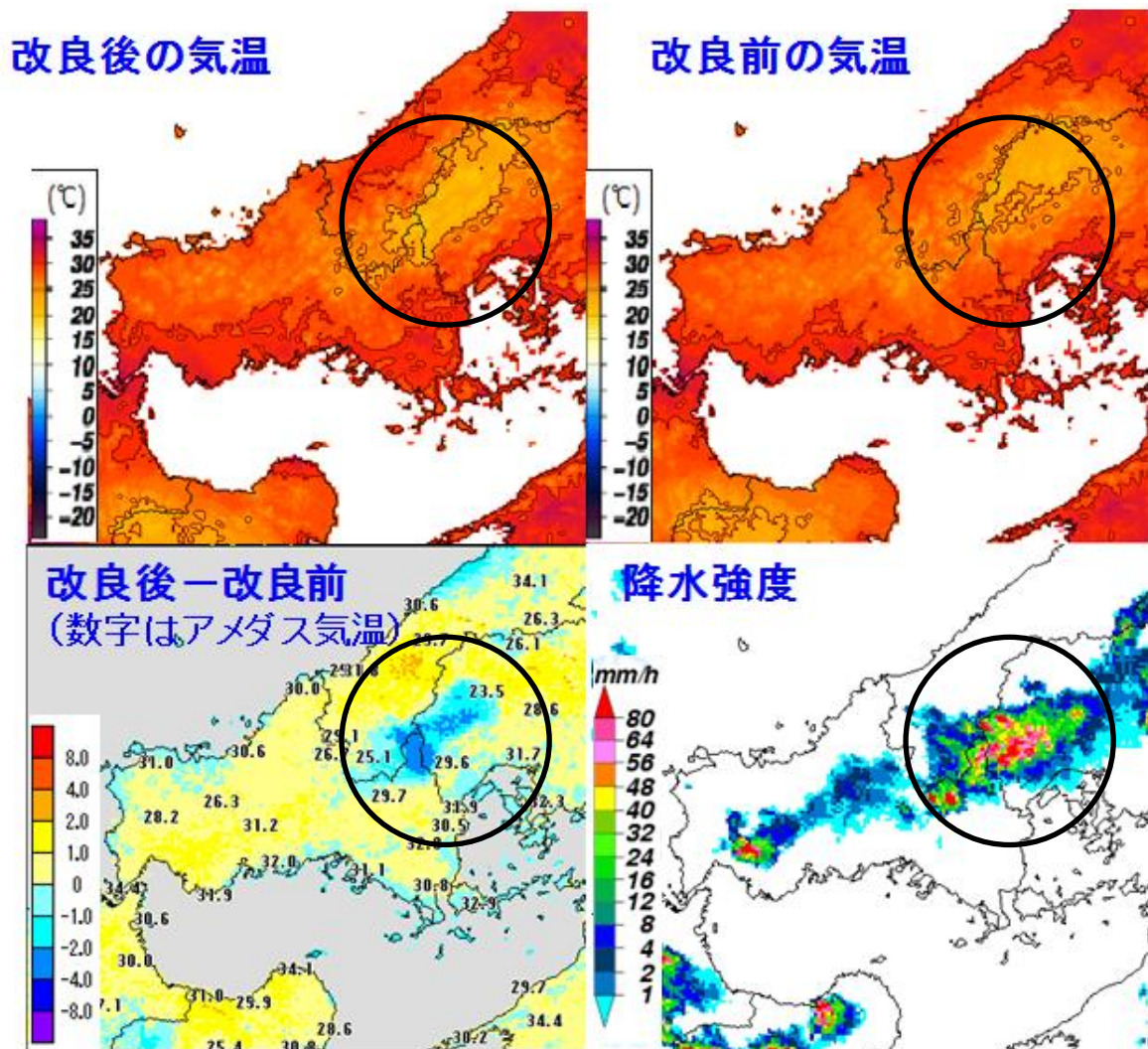
<https://www.data.jma.go.jp/add/suishin/jyouhou/pdf/506.pdf>

問合せ先：観測部計画課気象技術開発室 担当 若山
電話 03-3212-8341（内線 4863）

推計気象分布（気温）の改善例

これまでは、局所的降水等に伴う気温変化については、場合によってはうまく表現できないこともありました。今回新たに、降水の分布をより素早く反映している局地モデル（LFM）で予報された気温の分布を利用することで、そのような変化をこれまで以上に正確に表現します。

例えば以下の例では、改良後の気温の分布は降水による気温低下を反映し、降水がある地域（図中の黒丸）で改良前より最大2℃程度低くなっており、より正確に表現しています。



推計気象分布（気温）の改良前後の例（2017年7月31日15時）

左上：気温分布（改良後）、右上：気温分布（改良前）、左下：気温分布（改良前後の差分）、右下：降水強度